

「恐竜・化石を活かした地域づくりの方向性」

平成30年8月
北海道恐竜・化石ネットワーク研究会



目次

1. 背景と目指す姿	1
2. 恐竜・化石が有する価値の継承	2
(1) 恐竜・化石の5つの価値	2
(2) 北海道の恐竜・化石が有する4つの価値	3
3. 理念と取組方針	4
(1) 恐竜・化石情報の共有・発信	5
(2) 広域的に連携した取組の推進	5
4. 推進体制	6
5. 今後の取組スケジュール	7
6. 道内における恐竜・化石展示施設	8



1. 背景と目指す姿

【背景】



小平町やむかわ町のハドロサウルスや中川町のテリジノサウルスなどの恐竜をはじめ、足寄町の海生ほ乳類や三笠市のアンモナイトなど、各地で、恐竜をはじめ様々な古代生物の化石（以下「恐竜・化石」という。）が発掘される北海道は化石の宝庫です。

2017年（平成29年）には、2003年（平成15年）に胆振管内むかわ町で発見された脊椎動物化石が、世界的にも極めて貴重なハドロサウルス科恐竜の全身骨格であることが発表されたことを契機に、道内の恐竜・化石の価値を見出し、地域づくりに活かす方策検討の機運が高まりました。

【目指す姿】

恐竜・化石は、道内各地で発掘されており、子どもだけではなく、多くの人々の好奇心や想像力をかき立てる魅力にあふれた地域資源です。

これらの地域資源は、教育や生涯学習などの「学び」や、発掘・レプリカ作成などの「体験」素材になるだけでなく、自然、食、温泉など地域ならではの魅力と結びつけながら、観光をはじめ、修学旅行や小学生の交流学習、研究フィールドなどの場として地域への来訪を促すことにより、地域経済の振興にもつながります。

このため、恐竜・化石が発掘される各地域が、目指す姿と理念を共有しながら連携・協働し、恐竜・化石がもつ潜在的な価値を一層高め、効果的に活用することにより、地域の活性化につながる取組を進めます。



2. 恐竜・化石が有する価値の継承

(1) 【恐竜・化石の5つの価値】

① 研究的価値

学芸員や研究者など専門家が、恐竜・化石の分類や生態をはじめ、当時の環境や地質、大地の成り立ちなど、様々な観点から謎を解き明かすことによって、北海道はもちろん、地球全体の成り立ちを知ることができます。

② 教育的価値

子どもから大人まで多くの人々が、大昔に生きて絶滅した生物を、今は、化石として見たり触れたりすることで、地球の歴史や環境に一層興味がわき、知り、学ぶことができます。

③ 資産的価値

恐竜・化石そのものが、非日常的で希少性を有していることから、地域で保有・展示することによって、現地を訪れてはじめて体感することができるとともに、時代を超えて、100年、200年先の人々にも普遍的に興味をもってもらうことができます。

④ 広報的価値

恐竜・化石はインパクトが強く、世代を問わず多くの人々の興味を引き、特に世界的に発掘例が少ないものは注目されやすく、話題性を有し、多くの人々に魅力を知ってもらうことができます。

⑤ 経済的価値

恐竜・化石をテーマとした展覧会や物販などを中心として、特産品などと組み合わせることにより、地域への来訪や地元産業の振興など地域経済の活性化につなげることができます。

恐竜・化石の5つの価値
[太古からの財産]



多くの人に知ってもらい
未来へつないでいく



2. 恐竜・化石が有する価値の継承

(2) 【北海道の恐竜・化石が有する4つの価値】

① 豊富な種類の化石が発掘

北海道では、中生代後期白亜紀の恐竜や海生爬虫類、新生代のほ乳類や鳥類化石など、中生代から新生代まで幅広い時代にわたって豊富な種類の化石が発掘され、保存状態も良いため、当時の生態系の再現に役立ち、時代による変遷を生き生きと描くことができます。

② 後期白亜紀の化石が発掘

北海道では、後期白亜紀、すなわち、知名度が高いティラノサウルスの時代の地層から発掘されており、また、この時代は、恐竜などが絶滅した6,600万年前の直前にあたり、絶滅に関する情報を得ることができます。

③ 現在につながる新生代の化石が発掘

北海道では、新生代のクジラ・イルカ、デスマスチルス、マンモスなどのほ乳類化石も豊富に発掘されており、これらは現在につながる動物たちであり、北海道の動物相の変遷を知ることができます。

④ 海生と陸生の化石が発掘

北海道では、中生代後期白亜紀の地層からは、恐竜や海生爬虫類、新生代の地層からは、クジラ類やデスマスチルスなどの海生ほ乳類やマンモスなどの陸生ほ乳類が発掘されており、当時の海と陸の双方の世界観を描くことができます。

中生代（白亜紀）

- ☆アンモナイト（夕張、三笠、沼田、浦河、羽幌他）
- ☆クビナガリュウ（三笠、むかわ、中川、小平）
- ☆テリジノサウルス（中川）
- ☆ノドサウルス（夕張）
- ☆ハドロサウルス（むかわ、小平）
- ☆ティラノサウルス（芦別）
- ☆モササウルス（三笠、むかわ、沼田）
- ☆ウミガメ（むかわ、中川）
- ☆プテラノドン（夕張）
- ☆ヘスペロルニス類（三笠）

新生代（古第三紀、新第三紀、第四紀）

- ☆カイギュウ（滝川、札幌、初山別）
- ☆ナウマンゾウ（忠類）
- ☆マンモス（えりも、羅臼）
- ☆デスマスチルス（むかわ、足寄、歌登）
- ☆アロデスムス（浦幌）
- ☆タカハシホタテ（滝川、沼田）
- ☆クジラ、イルカ（札幌、むかわ、足寄）
- ☆プロトプテルム類（網走）



3. 理念と取組方針

【理念】

<地域をつなぐ～連携・協働の地域づくり>

道内全体で、恐竜・化石を活用した地域づくりの機運を醸成するため、関係機関が恐竜・化石という資源を地域振興につなげるための知恵を共有し、広域的に連携した取組を進めます。

<時代をつなぐ～価値の継承>

恐竜・化石がもつ多様な価値を見出し、次の世代に継承するため、適切な保管・管理のもと、恐竜・化石を地域資源として活用した継続的な取組を進めます。

【取組方針】

本道における恐竜・化石を活用した地域づくりを推進するため、適切な保管・管理のもと、多様な関係者の連携による持続可能な取組を展開していきます。

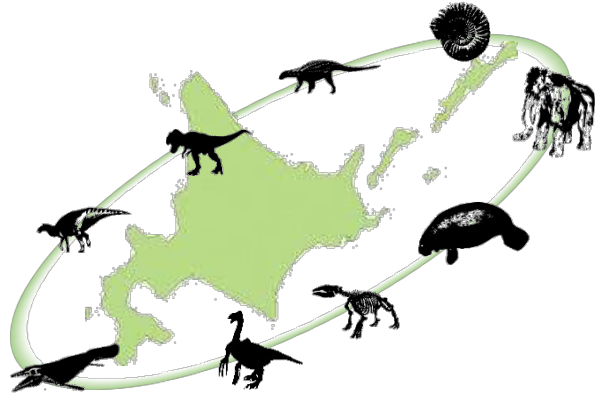
(1) 恐竜・化石情報の共有・発信

(2) 広域的に連携した取組の推進



(1) 恐竜・化石情報の共有・発信

教育・生涯学習、観光・文化振興、研究など多様な価値を持った地域資源である恐竜・化石について、道内各地域が連携・協働し、その魅力を発信していきます。



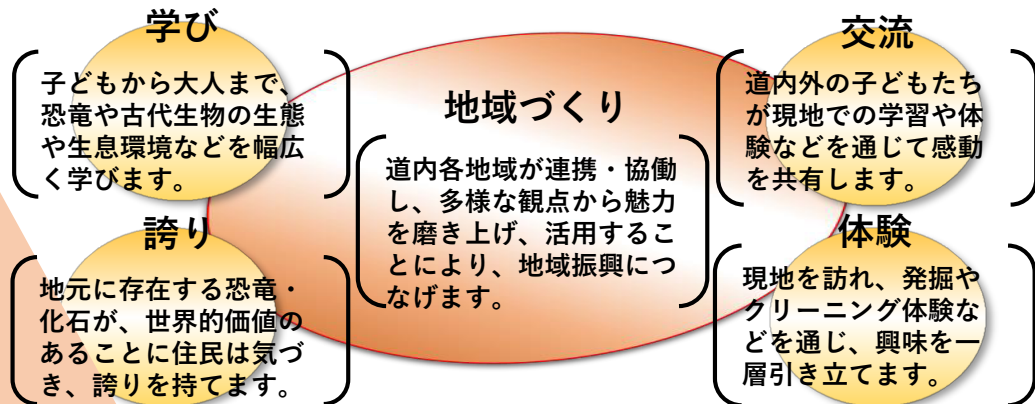
道内各地の恐竜・化石
情報を一元的に発信

【効果的な情報発信】

- ・道内外での観光イベント等におけるPRの実施
- ・道内各地の恐竜・化石情報を一元的に発信
など

(2) 広域的に連携した取組の推進

全道各地で発掘・展示されている恐竜・化石について、各地域が地域資源として潜在的な価値を磨き上げ、それぞれの地域や資源が有機的につながる取組を官民連携して推進します。



広域的に連携した
取組の推進

【広域的に連携した取組の推進】

- ・道内外の機関と連携しながら、北海道への来訪や地域を巡る観光コンテンツの作成
- ・恐竜・化石の魅力を子どもから大人まで知り、学び、体験できるイベントを関係機関が連携して開催 など



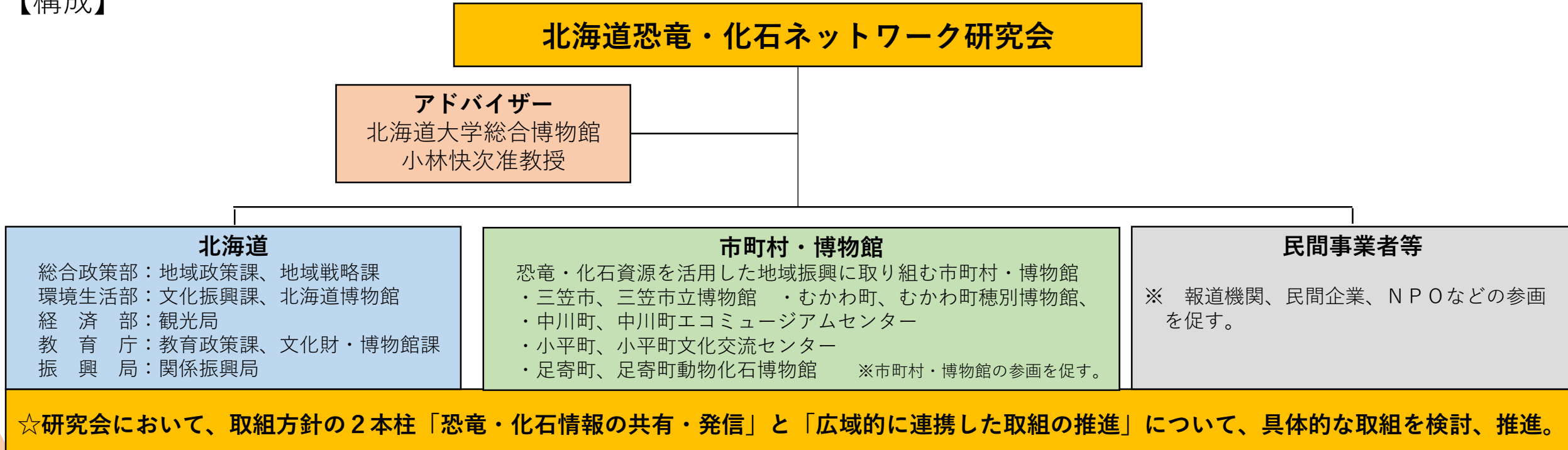
4. 推進体制

「北海道恐竜・化石ネットワーク研究会」

【目的】

恐竜・化石を活用した地域づくりに向け、道内各地における取組の現状や課題、先進事例などを共有・蓄積しながら、地域と産学官が広域的に連携した取組について検討し、推進します。

【構成】



現状・課題の共有・蓄積

広域的に連携した取組の検討

事業の推進



5. 今後の取組スケジュール

【これまでの主な取組】

【情報発信】

- アンモナイトレプリカ作成等各種イベントの開催（北海道博物館）
- レプリカづくり、自然観察講座等の開催（三笠）
- 各種普及講演会、発掘体験イベント等の開催、「むかわ竜」広報資材の作成・配付（むかわ）
- 野外普及活動、室内体験講座等各種イベントの開催（中川）
- 研究成果発表講演会の開催（中川）
- 恐竜・化石に関する町民講座の開催（小平）
- 町内外での化石教室の開催（足寄）
- 「むかわ竜アカデミーin赤れんが」（講演会、クリーニング体験等）の開催（道）
- 学習指導要領に基づく化石を取り上げた地層構成の学習（道）
- 文化財（天然記念物）指定の推進（道）

【広域連携】

- 「にっぽん恐竜協議会」（構成市町：兵庫県丹波市、篠山市、熊本県御船町、北海道むかわ町）の設立（むかわ）
- 「北海道恐竜・化石ネットワーク研究会」設立（道）

【今年度の主な取組（予定）】

【情報発信】

- 各種普及講演会、発掘体験イベント等の開催、「むかわ竜」広報資材の作成・配付（むかわ）
- むかわ竜のレプリカ制作、「ハドロキッズチーム」の設立（むかわ）
- 野外普及活動、室内体験講座等各種イベントの開催（中川）
- 研究成果発表講演会の開催（中川）
- 恐竜・化石に関する町民講座の開催（小平）
- 足寄動物化石博物館20周年講演会の開催（足寄）
- 札幌市内、冬季ニセコ地区でのPRの実施（道）
- 文化財（天然記念物）指定の推進（道）
- ホームページで北海道の恐竜・化石に関する取組情報などを取りまとめ、一元的に発信（道）

【広域連携】

- 国立科学博物館と連携した特別展、講演会の開催（三笠）
- 「にっぽん恐竜協議会」構成市町における化石の相互展示や子どもたちの交流、特産品・観光PRの実施
- 道外イベントなどでジオパーク、日本遺産、北海道遺産と連携したPRの実施（道）

【今後の取組の方向性（検討）】

【情報発信】

- ・道内外での観光イベント等におけるPRの実施
- ・道内各地の恐竜・化石情報を一元的に発信 など

【広域連携】

- ・道内外の機関と連携しながら、北海道への来訪や地域を巡る観光コンテンツの作成
- ・恐竜・化石の魅力を子どもから大人まで知り、学び、体験できるイベントを関係機関が連携して開催 など

地域に対する支援

- ・地域政策推進事業等による道と連携した取組
- ・地域づくり総合交付金による支援
- ・国の地方創生関連交付金の活用等の助言



6. 道内における恐竜・化石展示施設

※太字は化石を中心に展示している施設及び恐竜の化石

中川町エコミュージアムセンター (テリジノサウルス、ナガワケビガリュウ)

稚内市青少年科学館 (アンモナイト)

天塩川歴史資料館 (テシオククジラ)

初山別村自然交流センター (ショサンベツカケユウ)

羽幌町郷土資料館 (アンモナイト)

小平町文化交流センター (ハドノサウルス、エラスモサウルス)

滝川市美術自然史館 (タカカケユウ)

芦別市星の降る里百年記念館 (アンモナイト)

三笠市立博物館 (アンモナイト、ゾウミカサリュウ、**夕張産ハドノサウルス**)

芦別産ティラノサウルス

夕張市石炭博物館 (アンモナイト)

北海道博物館 (忠類産ナウマンゾウ、マンモスゾウ)

北海道大学総合博物館 (樺太産ニッポノサウルス (ハドノサウルス)、デスマスチルス)

札幌市博物館活動センター (サッポロカケユウ、初山別産ショサンベツカケユウ)

北広島市エコミュージアムセンター-知新の駅 (キタヒロシマカケユウ)

今金町文化財保管・活用庫 (ヒリカケユウ)

黒松内町ブナセンター (貝、クジラ、カケユウ)

八雲町郷土資料館 (ハイソウ)

由仁町ゆめつく館 (ケガマンモスゾウ)

むかわ町穂別博物館 (ハドノサウルス、ケビガリュウ、モサウルス、ウミガメ)

沼田町化石館 (マタネミルカ)

ホーツクミュージアムえさし (デスマスチルス)

深川市生きがい文化センター郷土資料館 (フカワクジラ)

湧別町郷土館 (ナウマンゾウ)

北網圏北見文化センター (デスマスチルス)

別海町郷土資料館 (マンモスゾウ)

根室市歴史と自然の資料館 (マンモスゾウ)

釧路市立博物館 (クシロムカシバク、カケユウ)

足寄動物化石博物館 (アショロア、ベヘトプス、浦幌産アロデスミス)

忠類ナウマン象記念館 (ナウマンゾウ)

えりも町郷土資料館 (マンモスゾウ)

浦河町郷土博物館 (アンモナイト)

